

令和2年第3回 全員協議会要点記録

日時 令和2年3月3日 15:42～17:22

出席者 議員9名

町長、副町長、阿部総務財政課長、大川企画課長、森本町民課長、
齊藤議会事務局長

議件：(3) その他 エネルギー勉強会について

議長

それでは、議件(3)のその他について何かありますか。
町長。

町長

先日、地層の勉強やりましょうという話の中で、誰も意見出てこなかったのですが、その後、越前谷議員から事務局の方にちょっと内容というのか。洋上風車の件を浮上させるための手立てとして私はチャンスというかここをきっかけにしたいと思い、ここもちょっと本音でいろんな話しないと誤解されたらちょっと面倒な話になるし、地層ということは原発絡みの話になりますし、ここを心配して越前谷議員が局長の方にちらっと心配的な話をされたということで、私は今日の全員協議会で若干触れたいなというのを思っていました。

まずは、私の思いは後でしゃべりますけど、越前谷議員の方からどの辺がちょっと不安というか心配というかその辺の意見を聞かしていただいて私の方からお話させていただきたいと思うのですが。

越前谷議員

はっきりこういうものだというのはないのですが、洋上風力をやるために何かいい、国を動かす何かいい方法・方策がないかということについてなだろうなと思っていました。

たまたまうちにはエネルギー勉強会というものがあるから、それを通して国に働き掛けるという、それは町長の考え方がいいと思うのですが、ただ、原発絡みというかいわゆる核廃棄物の処理の問題でっていうことになる、調査という言葉が出る自体も、やっぱり北海道だけじゃなくて全国的な絡みの中で、いいのだろうか。うちがそういうことで調査ということだけでも手を挙げるとか、まあ話し合うことについては反対はないと思うのですが、そういうことで国に手を挙げるということについては、これはいささか問題があるのではないかと。これらについてはざっくりばらんに皆さんで話をし、そういった中でどうするかと。それともう一つそういった廃棄物処理というところの調査というよりも、もっと洋上風力をこちら側に引き寄せるための何かいい案を皆さんで考えて難しいでしょうけど。それなりに皆さんで考えていく必要があるのではないかと。そこら辺がちょっと心配になって、事務局の方に問い合わせした訳なんです。それ以上何もありませんけど。できれば、そういうことも議会の中でも話し合っ、どうしたら、そういうところも潜り抜けていけるのかを話し合う必要がある。この調査をすべきだということではなくて、これらを含めて、そういう言葉が出ること自体が、皆避けて通っていることですが。皆さんから

本音を聞く必要があるのではないかと。

議長

まず、町長。

町長

洋上風車、この後志の海域の中で7か町村に広げた思惑というのは、岩宇4か町村というのは、原発で歴史をね、北海道のエネルギー基地として原発であそこのエリアは支えてきた。だから風車の建つ場所は、岩宇4か町村は泊のあそこを中心に7.5キロは建てられないというそういう約束事になっていますから、まずほぼあそこら辺には建たない。ほとんど建つのは蘭越の尻別川辺りから寿都・島牧、この3か町村の前浜に多くの風車が建つ可能性は高い。それなのに、なぜ3か町村でなくて岩宇4か町村も私の思いで入れたかという、最初岩宇4か町村は原発しか頭になくて再生可能エネルギーなんてこれっぽっちも思っていなかった。そんな話にも乗りたくないんですよ。今までも原発で生きてきたし、これからも原発を守るのが、4か町村の役割ですよって思っていました。それはストレートに私も言われました。けども今、世界の流れ、日本の流れは原発というのは、はっきり言って過去のものだ。海外でもそうですし。これを多少維持するか、いずれは原発というのはなくしていきましようというのが世界の流れなんです。だから、いくら4か町村が踏ん張ったって、時代遅れになってしまいますよ。国もエネルギー基本計画で再生可能エネルギーを主力電源化に決めたんですよ。原発はその次になっちゃってる。だからここの権利を他所様にトンビに油揚げ取られるぞと、取られてから泡食ったって遅いよと、そういう話、あまりにも聞く耳持たないから。今松山では■■■■でどンドン各自治体に説明までして、漁協にも説明までして。まだ■■■■決まった訳じゃないんですよ、やり方ちょっと違うんじゃないのと思えますけど、いろいろなやり方あるから。国の進め方は入札だっていっている。■■■■もそうですけど、さも石狩と松山は決まったみたいな記事を書いている。違うと思うんです。ここは前浜は我々の生活圏ですよ今まで。漁協を中心に。ここを提供する、我々が業者を選ぶんだとそれ位の気持ちが無かったら、海に対して失礼だと。そこでその業者とどう連携することで、この日本海が今非常に漁獲量も減って厳しい中で、どうウインウインの状態になるのか。それにはやはり固定資産税だけじゃなくて、固定資産税はできないと金が入ってこないですから。その前にどう協力的な関係を企業と結ぶのか。そういうものも含めて私はやっていくべきだし、4か町村を仲間に入れたということは、国に対しても■■■■に対して、我々3か町村が■■■■にしゃべる国にしゃべるより、4か町村が国に一言いった方が絶対説得力ある。寿都だってそうでしょ。600キロ3基の件でも文句言ってできた。あと1万キロやりたいといったって全然箸にも棒にもかかりませんでした、■■■■は。■■■■に一言頼んだら1

週間でコロッと変わった。その位、腹立つけど力があるんですよ。4か町村はやっぱり。洋上風車を少しでも持ち上げるために、4か町村も仲間に入れることが、ここの後志を浮上させる一つの要因ですよ。それと併せて、勉強会をしようというのは、今エネ庁が一番困っているのは、やっぱり核のゴミの処理の問題なんです。これを私はくすぐってあげましょと。くすぐられるのではなくてくすぐってやろうと。国の弱いところを。私はビジネスとして考えている。この持っていき方によって国を岩宇4か町村のみならず、国もこっちに引き寄せる。洋上風車を浮上させる。先生にも会うたびに頼むねと話しています。確実にとるには、いろんな手法を使ってこの後志を浮上させないとならない。まず、選ばれないことには金にならない。これは他力本願です。業者が決まって固定資産税というのも他力本願。稼ぐ他力本願を浮上させるためには、まず選ばれないとどうにもならない。国を引っ張り込みましょというのが私の考えです。損して得とれじゃないけど。固定資産税だって1/7で、紳士協定で、海はつながっているから。これは逆に売りになるなど。国に対しても説得力ある。いろんな考え方の中の勉強会はその一つです。決して、うちはここで最終処分場に手を挙げて頑張りますということではない。ここの勉強だって1回じゃなくて、何回もやる、まずは議会の中で。町民にはこの話はまだできません。内緒です訳ではないけど。去年の4月以降4回エネルギー勉強会やったというのも、これからの振興計画の中のエネルギーというのもやっぱり取り入れていかなければならない。その中で最後にいろんな補助金の話だとか出てきましたよね。その中に説明はしてなかったけど、その中にもおいしい補助金はある。これを、補助金をいきなりとるというのではなくて勉強した中で、あれっと思うこともあるかもしれない。こんな金いならいとなるかもしれない。まずはエネルギーに対する、風もバイオマスも勉強です、原発も勉強だと。私はこの後志だから逆にこの勉強というのが国に対する説得力ある。このエリアが。そこをくすぐりながらとにかく最低限洋上風車の権利。次の部分は皆さんと勉強会しながら本音の中で、あれということも出てくるかもしれない。やることが前提じゃない。あまり固く考えるのではなくて、勉強の一環として、やっていきたいというのが私の提案なんです。

議長

幸坂議員。

幸坂議員

前回、お話あったとき私も反対だったんですけど、中々、声が出せないという状況だったので、その後、まずかったなと自己反省もしているんですが、今、町長がおっしゃたように4か町村も仲間に引き入れて、洋上風力の運動を起こしていくことは、何も異論はないですけど。国をくすぐる地質調査というのが、全国どこも引き受けないということはいろんな専門

家もいってますけど、日本の国土の中で原発の廃棄物を埋める場所はないんですよね。地中に埋めるのはだめだという話も出てきて、地上で管理する、私も詳しく分からないですが、地上で目の見えるところで管理する。埋めてしまって10万年とか管理はできないというような話も出てますが、だからそういう意味で全国どこもやはり、そういうところはないし今、現実にどこも引き受けようとしてない地質調査のことを、こちらから国に声掛けするというのはちょっと、私はやるべきではないと思います。洋上風力について力を尽くすことは反対していないが、そういうことをしていると国もしたたかですから、一度そういう素振りを見せるといろんな形でやってくると思うので、そこは切り離して洋上風力は進めるべきだというふうに私は思っています。やはりそういうのを進めるために、まちづくりにもつながるんですけど、町民がまちづくりに積極的に関わって発言するようになるということが、寿都の町が活気づく一番かなと思っています。町民と一緒に電力会社とかそういう事業もやったほうがいいんじゃないかといってるんですけど、町民を引き入れて学習会とかそういうことをするのは賛成なんですけど、地質調査に手を付けるのは別として考えたいなと、そのことは反対したいと考えています。

町長

地質調査に手を挙げる訳ではないんです。核のゴミについて、良い悪いは別として、原発反対という人も日本には相当います。資源がない中で原発に活路を見出そうということで、いろんな科学学者含めて努力したことも事実だし、東海村の結果的に失敗したけどもシステムも、あれ成功していれば、今の核のゴミというのは、あそこでまた再利用ができて、高熱のやつもあそこで相当、分裂して相当の年数掛かるけども、これもいろんな科学者がチャレンジして、ことごとく全世界でもうまくいっていない事例ですよ。これもやった以上は、我々は学ぶべきじゃないか。手を挙げて調査をしますと言っている訳ではない。ここを勉強しよう。国も札幌にも来て説明会もやっている。全国津々浦々、この核のゴミの説明会はやっているんです。だけど細かくやっているところは、各自治体に入り込んでやっているところはないんです。ここがビジネスチャンスだと、国をくすぐるといっているのはそこなんです。寿都だけでなくほかにも勉強したいというところはあるんです。ここが最終的に地下に埋めるのに手を挙げるなんていうことは、全然思ってもいないし、ここをある程度、国との関わりの中でビジネスとして成り立つか成り立たないか。勉強して最終的にはやめましょうと言ってもいいんです。何としてもここ調査してやりましょうと、まず文献調査とかいろいろあるみたいですけど、そこまでやるなんて言わないし。入口の中で、去年のエネルギー勉強会の一環として原発についてもう一回学びませんかという提案なんです。これはいきなり町民も集めて産業団体も含めてやるということは、やはりいろんな考え方の方々がいら

っしやるんで刺激が大きすぎるから、私は議会の中だけでまずは勉強会をして。こういうことというのは仮にやらないにしても反対にしてもやはり勉強会の中で産業団体も入れた訳ですから。やはり知らせるためにも産業団体でも勉強会をということであれば、やっても。勉強会イコール調査やる訳ではないですから。そういうふうに思っただけでも確実に、この洋上を勝ち取りたいなど。そうしないとこの前も見せました、3か町村のゴミ、あれ40億かかります。徳美会の寿海荘10何億かかります。これ、どうします。この財政の状況の中で。だからある程度、他力本願でも洋上風車って何千億の事業です。その中の固定資産税だって結構なものになる、1/7でも。ここを確実に獲得する手立てというのはやはり私はやるべきだと。誰も助けてくれませんか。いくらきれいなこといったって。

議長

幸坂議員が心配していることってというのは、全然その段階でない、はるか先にある、もしかしたら議論する時が来るかもしれないだけの話だと私は思います。その前の勉強会をするとうことは、知識を持つということで、とても大事なことから。それでどうこうということはなく、もし方向性が議論されるとしたら、すればいいだけの話で、そのときに「だめです」といえばいいだけの話だと思います。そういうことでしょ。

町長

そうです。今、大上段に地下調査に手を挙げますという話じゃないです。そうなったら、一昔前に東洋町がボコボコに住民にたたかれて、次の選挙に落とされたって話になる。

議長

そういうのは、遥か先にある話であって、今、皆で勉強しようということなんでしょね。はい沢村議員。

沢村議員

良い悪いは別として、エネ庁でも経産省でも、風量発電に力入れてここで決めるとなったら、何もなくて力だけ貸すということはないと思う。自分が経産省でもそうする。調査する引き換えとして後から要求してくる。この前も話したけど、原発に絡めたらやらない方がいいと思う。だけど学習会をやりながら、エネ庁や経産省が提案して、それらが提案したくらいならちゃんとやってよというぐらいだったら、くすぐることになるかもしれないけど、うちから手を挙げてやることではないような気がする。相手が出てくることは拒まないけど、こちらから自ら手を挙げてやるというのは・・・さっきも言ってたけど絶対そうなってくる。私の独り言で言わせてもらえば、幌延の原発の研究施設はね2009年までなんだよね。令和2年から。あれだって結果的には力で押さえられながらやって、原発はあそこに埋める訳ではないんだけど、それともう一か所くらいは原発の研究機関をやろうという提案であれば、大きな反対意見もあると思うんだ

けど、原発を入れることと研究機関を作るというのは別で。それだって「うん」ということになるか分からないよ。研究機関・幌延のときだってすごい反対あったのだから。そういう程度でも反発は相当予想されるけど。洋上風力と刺し違えるかということになって、後からエネルギーの勉強しながらどうかとなれば、絶対、北海道が原発を入れないといっている訳だから。寿都も原発を入れないということを前提にして研究機関を作るといのであれば、まだ議論の余地もある。いずれにしてもエネルギー勉強会はやはりやった方がいいと思う。原発を主体にしてやるのではなくエネルギーという一つの課題を風力も含めて、やはり勉強会するということはマイナスではないと思う。

町長

私も、先程、本音でいきたいと思いますと話したから。すべてビジネスなんです。ビジネスにならなかつたら金にならないんです。金には色ついてないし。今、国で再生可能エネルギーの主力電源化ということで力入れているのも事実だし、ここで国に洋上風力で協力しましょうというのも一つなんです。協力したくても風のないところでは立てられないし。ここはチャンスなんです。後志として。桧山もチャンスかもしれない。石狩も。その中で、最終的に■■■だって中々送電線というのは厳しいですよと言っている訳だから。その中で北海道の中でも競争なんですよ。よそに取られたら終わりです。どうやって勝ち取りましょう。きれいごとで勝ち取れるというものであれば、それに越したことはない。新聞報道でも後志のしの字も載っていない。すべて石狩・桧山で何回載りました、記事に。相当遅れているんですここは。遅れを取り戻すためには、私はどんな手を使ってでもやってやるという思いでいます。

あくまでも、勉強会です。この話したからエネ庁が寿都にどんどんその話進めてくるかとなっても、それは違うといえます。

副議長

基本的には、原子力発電をやって、その恩恵をもらっているけど、そのゴミ捨て場を作っていない、処理を考えていないという世界の話なんだけど、そこのスタートからやっぱりおかしいんだよね。高廃棄物とか低廃棄物とかいろいろあるが、言葉で言うけどどんなものか分かっていないというのが現実であって、やはりきっちり廃棄物であろうと風力であろうとバイオマスであろうと我々が勉強会を進めていくのは必要性があるのではないか。核廃棄物となるとそれ以上のことはアレルギーというかそういった形になるんだけど、どういうものか勉強するということが一つの方策である。私は基本的に思っているのは原子力発電の恩恵を受けているのにその後始末を考えてないという政策でいいのかなと考えています。国民一人ひとりが知識をもって勉強していくことは大事ではないかと考えています。ケースバイケースでその時々で考えていかないとならない。

議長	木村眞男議員はどうですか。
木村眞議員	私は、勉強会を開いて知識をたくさん取り入れて考えていけばいいと思います。
議長	木村親志議員はどうですか。
木村親議員	<p>自分の立場で、海をこれからも守っていくという立場それとそれを利用する組合員、そういった人達の生業を続けていくかという部分も考えていかなければならないと思うし、やっぱり町のことも同時に考えるときにどうやってその漁業者と上手に勉強していくかというものもあると思うのです。洋上風力の場合、ずっと説明聞いているけど、やはり早くにスピード感をもってやっていかなければ、これに乗り遅れたら大変だと。これは漁業者も大変だと思う。今、魚が安い、資源が少なくなったそういう意味でも、補償をくれということではなくて、海を利用している漁業者の場を皆で使おうというものに対して、漁業者も助けてくださいということも出てくるかもしれない。</p> <p>そういう意味では勉強会は、自分自身も勉強しないとならないし、勉強したものを漁業者にも伝えていかなないとなくなるといった意味では、勉強はしていきたいと思います。</p>
町長	<p>木村議員言われたように、核の勉強ばかりじゃなくて洋上風車も、まだ分かっていない部分ってあるんです。五島だとかあちこちモデル的にやっている地区もあって、そこもそんなに悪い情報は入っていないんです。結構いい情報聞いている。ただ聞いているだけで、もっと突っ込んだ勉強しないと、やはり漁業者の理解無くして洋上だって進まない話だし、ここの勉強も併せて私はやるべきだなというふうに思います。</p>
議長	友山議員はどうですか。
友山議員	長い時間、本音で話をされた気がするので、エネルギーの勉強会も大事ですけど、全員協議会の中とか、議員だけのエネルギーの勉強会、その中で町長が言われるような話も勉強してみたらどうだろうか。
議長	川地議員はどうですか。
川地議員	同じような感じです。

議長	<p>沢村議員も幸坂議員も越前谷議員も考え方おっしゃられたと思うのですが、全体見ますと核の廃棄物のことでは全然なくて、それとリンクさせるらややこしくなるんです。勉強会なんですからエネルギーの。ここで押さえておけばいいのです。それからどうなるかなんていうのは遙か先の話であると思うのです。本当に勉強したいと思っています。</p> <p>自分たちで調べていますけど自分たちの知識しかないものですから、知りたいと、専門家の方たちの意見も聞きながら詳しく、皆さんが見識を高めるのは、大事なことだと思います。脊髄反射しないで、いろんな知識を深めることは大事だと思います。</p> <p>どうですか副議長。</p>
副議長	<p>皆さん勉強するのは異論ないみたいだから。</p>
幸坂議員	<p>それに反対している訳じゃないです。それだけで洋上風力が町長の言うように浮上するかというそれはあり得ない。国はそんなに甘くないと私は言っているんです。</p>
議長	<p>町長は少しでもやれることはやっていきたいと言っているのです、これから将来のまちづくりにおいてもとても大事なことです。ぜひそれは7か町村で実現出来たらすごいなとか、いいことだと思います。そうすべきだなと。そのために町長がいろいろな努力を重ねていきたいということです。それが一つの勉強会が材料ということであれば我々も勉強したいことですし。それがエネ庁をくすぐる材料になればぜひ進めていきたいと。</p>
町長	<p>洋上を少しでもここを選んでもらうためには、7か町村の首長がエネ庁また国交省に要請に行くという計画もしなければならぬし、プラス漁協の組合長も4つの組合ありますから、一緒に行くということもしなければならぬし。また、現地として4つの組合の生産者の皆さんに洋上風車の勉強会やる必要もある。いろんなことを早めに計画していかないと現地でそういうふうにありますよということが、エネ庁に対する訴えでもあるし、ただ何もしないで、ここを浮上させようってそんな虫のいい話はない。いろんな行動をやっていくべきだと思います。</p>
議長	<p>もし説得力があるのであれば、例えば議会で前あったようにエネルギー対策特別委員会とか作ってやるとかいうことになれば、説得力あるのかなと。そこで講師先生を招いて話を聞くとかね。そういう方法もあるのかなと。</p>

町長	そっちの方がいいかもしれない。
副議長	うちだけじゃなくてこの後志地域が生き残りができるかできないかという話だから、いろんな勉強会やって議論していくことが大事じゃないかと思っていますので。エネルギー特別委員会作ってもいいし、何してもいいんだけど、やはりそういう形でいろんな努力が必要でないかと思っています。
議長	どうですか、議運委員長。 皆さんの了解得られれば、この会期中に追加して最終日に載せるとか。
町長	7か町村含めてやるのは難しい話で、うちだけで。うちが立ち上げたよという話は各首長にはします。あと首長にこうしてとは言えない。いいなと言ってやるところは、まねしてやってもいいだろうし。
議長	私からのお願いでもあるんですが、これはエネルギー対策委員会のようなものを組織してそちらが受け皿となって、その件に絞って協議する、勉強会をするというふうにした方が。ただ議員協議会はやったものから、受け皿を作ってやった方が、いいのではないかと思うんですけど。どうでしょうか。
友山議員	いいと思います。
議長	そういうことでどうですか副議長。 (いいのでは) 今議会で、追加日程で出せるよね。
局長	確認します。
議長	勉強会は具体的にエネルギー対策委員会でなくてもその前に時間やりたいという計画あるのですか。議会最終日以前に。
町長	ないです。最終日にできましたら経産局の方から以前にも来ていた方が来てくれてあらあらの説明をしてくれると。この勉強会は何回かやらないと中身がわからないでしょうし、ある程度継続してやってくれた方が、エネ庁にも働きかけになるものですから助かるんです。
議長	そういうことで、よろしいですか。 (なしの声)

	上程の仕方は？
局長	そこら辺も調べてみないとならないです。
議長	エネルギー対策委員会を即開いて、定例会最終日にということですね。 よろしいですね、この件はこれで終わります。 この後、協議の結果、特別委員会の設置は見送り、勉強会形式でとなった。